文庫あれこれ◆謹賀新年&寒中お見舞い申しあげます。本年も文庫に見えるみなさまが息災で、充実した日々を過ごせますよう、お祈りいたします。◆特定の宗教に関心があるわけではありませんし信心深くもないのですが、祖母に育てられたので、墓参も、参詣にも自然と足が向きます。従兄の家が代々群馬県の田舎の宮司(と言っても結構神職として偉いらしい)で、先日家族や親しい人の一年の無事をお願いしてきました。◆今朝（金曜）来たのですが（久しぶりの朝のラッシュアワーに出食わしました)、車中から「どうぞよろしく２０１４」という立て看板が見えました。今年もよろしく、という言葉は聞きもし自分でも言いますが、その年に向かってよろしく、と言ったことはなかったなあ、と今更ですが、2014 年に頭を下げる気持ちになりました。◆1 月 13 日付の「朝日」に四国八十八カ所巡りのお遍路さんのことが書かれていました。40 代の後半、家族、仕事 etc で呼吸困難になりかけ、休暇の度にひとり四国へ出かけ、3 年かけてただひたすら歩き通しました。よかったことは、自分を解放できたこと、何かあったらまたあそこに行けば何とかなる、という場所を得たことです。その後行っていませんが、若かったからできたことですね。◆一応まだ東京都民ですので、このどこへ行くとも知れない知事選がひっかかっています。市民運動に熱心なＭ市（東京都）の友人は、同時期に市長選があり、これまた大変のようです。◆何十年ぶりに主人と映画を観ました。飲んだ後なのできっと途中で眠ってしまうと思ったのですが、イビキまでかいたようです（勿論瞬間的ですよ)。映画の題名は、言わないでおきます。◆今回、スタッフを含め何人かの方に昨年読んだ本のおすすめを伺いました。参考になさってみてください。次回は子どもたちに聞いてみましょう。◆とにかく 1 年元気で気持ちよく過ごしたいですね。◆間もなく文庫会員最年長のＩさんが 98 歳になられます。読書欲まだまだ健在!です。(西村)

✿今年の開館スケジュール✿

◆2 月は通常 15 日(土)16 日(日)
◆3 月は通常 15 日(土)16 日(日)
◆4 月は通常 19 日(土)20 日(日)
◆5 月はロング 16 日(金)～21 日(水)
※アートフェスティバル参加
◆6 月は通常 14 日(土)15 日(日)
◆7 月は通常 19 日(土)20 日(日)
◆20 日は「海の日のおはなし会」
◆21 日は開館記念の催し物(内緒?!)

文庫の時間：
土曜日は午後２時～５時
日曜日は午前１０時～午後３時

❤毎月開館日(日)「子どものための小さなおはなし会（午前 10:30～11:00)」があります❤

✿おはなし沙羅の勉強会✿
毎月開館日(土) 11：00～13：00

沙羅の樹文庫　大室高原７－１２２
０５５７－５１－３７３７

No89　2014 年 1 月号

沙羅の樹文庫だより

文字のない絵本。女の子の不思議な旅…。いい絵です。おすすめです。子どもも大人も心豊かな思いに浸れるひととき…。
(講談社刊　2013)

くものむこうに　なにがある
あるぷすのゆき　あるのかな
かなだのもりか　はらっぱか
ぱかぱか　うまも　かけていく
いくら　よんでも　きこえない
ないるのかわの　そのむこう
こうもりたちが　とんでいる
いるかのうみは　なみあらく
らくだのさばく　ながいかげ
かげろう　ゆれる　ちへいせん
せんろは　どこまで　つづいてる
てるてるぼうず　ぶらさげながら
がらすのそとを　みるたびに
たびにでたいと　おもうよ　ぼくも
和田誠作『ことばのこばこ』より

中天に満月を仰ぐ、明日は今年はじめての文庫、ま～るく、おおらかに、やさしく、人とつながって、過ごせますよう。

2014年１月に読んだ本についての感想

2014年１月 16 日　　By　森林浴

『近代の呪い』　渡辺京二著　　平凡社新書　2013年11月　第2刷

熊本に根を生やして独自の思想を培っている静かでゆるぎない文人、渡辺京二の近代についての論考。第 4 章まではすべて熊本において行われた講義、講演の内容である。第 1 章では近代に国民国家がなぜ、どのように成立したのか、を論じ、第 2 章では世界の近代化は西洋化であったことの確認、第 3 章では大仏次郎を熟読したことを契機としてフランス革命を分析しており、第 4 章ではいわば本書の総論として近代化の超克はいかにあるべきかを論じている。近代がもたらした人間への最大の贈り物は人権・平等・自由という 3 点であったが、一方で二つの呪いをもたらした。①民族国家の拘束力がますます強化されること、②世界の人工化がますます進むこと、である。生活のゆたかさということの意味を新しくとらえ直し、経済成長がなければこの世は闇になるといった先入主から自由になる道を模索することが必要と説いている。

『立花隆の書棚』　立花隆著　中央公論社刊　2013 年4月再版

「知の巨人」と言われているこの著者の本棚を写真入りで紹介しているが、650 頁もある、とてつもなく厚ぼったくて重い（計ってみたらなんと900g）本だ。所有する本の総冊数は立花本人にも正確にはわからないが、10 万冊～20万冊くらいらしい（ちょっとした図書館！）が、実は書棚に入れていない本も相当あるようだ。

彼の読書範囲は広く、特にキリスト教・イスラム教など中近東から生まれた宗教とそしてヨーロッパの歴史、中近東とくにパレスチナ問題、アインシュタイン・ファインマン・フリーマン・ダイソンなどを網羅する科学・サイエンスの最先端、ウィトゲンシュタインなど幅広く深い哲学の世界、日本共産党から赤軍派にいたる左翼の歴史、春画などのセックス関連もの、好きな絵画―ラファエル前派、そしてもちろん田中角栄を頂点とする日本政治の裏面史、死後の世界の探求、など想像を絶する好奇心と読書力にはもうあきれるしかない。もちろん英語・ドイツ語・仏語・スペイン語・ギリシャ語・ペルシャ語・イスラム語など語学力も凄い。面白いことに、文学とか経済のものは殆ど無い。

知の巨人としては、外務省のラスプーチンと言われた佐藤優も有名だが、立花隆は最先端サイエンスにも強いのが特徴だろう。今特に注目すべきは、立花の原発問題への姿勢で、111 頁から 128 頁にかけて、原発の今後を明るく将来性あるものと展望していることだ。原発ゼロには反対なのだ。

『悪名の棺　笹川良一伝』　工藤美代子著　幻冬舎文庫刊　2013 年5月初版

平成 7 年、96 歳で亡くなった桁外れな人物の一生を知りたくて、この本をリクエストしました。

想像していた通りとんでもなく大きな振幅を持った人で、毀誉褒貶も桁外れです。

曽野綾子さんがしばらく会長をしておられた日本財団は、笹川良一が始めた日本船舶振興会という競艇の運営をしている団体が、彼が死亡してから名称変更した組織なのですね。年１兆円くらいある競艇事業の売り上げの3.３%が財団に入り、それを彼のスローガン「世界は一家人類みな兄弟」、「一日一善」に沿って世界中の福祉に使っている慈善事業団体。

私が南米に駐在していた時に笹川会長がやってきて、現地のハンセン氏病の施設を訪問して、患者と握手したとして有名になったことを思い出します。

先の大戦後にA級戦犯となって巣鴨プリズンに収容されたとき、東条もと首相らに「天皇に累をおよばさないようにしろ」と説教したなど面白い話が満載です。

著者に注文したいのは、こういう本には必ず主人公の年譜を付けて欲しいということです。

伊豆・高原・便り　　(Ki さんから Ke さんへ)

沙羅の樹文庫だより、いつもありがとうございます。すごいですね、今年の 12 月で No.100 となるので～す。

12 年が経って、首をもたげたら　周りの変わりよう…、アタフタしている今日日です。当面、「介ゴの家族会」と「傾聴ボラ」でやって行こう…と。

深い読書を、なさる Ki さん、そのうち、また、文庫にお顔、見せてくださいね。(sara)

１月に文庫に新しく入った子どもの本

絵本

『ペンキやさん』（あおきあさみさく　福音館書店 2013）　『よるのとしょかん』（カズノ・コハラ作　光村教育図書　2013）　『どーしたどーした』（天童荒太文　荒井良二絵　集英社　2014）　『狐とかわうその知恵くらべ　日本の昔ばなし』（鈴木サツ語り　太田大八絵　瑞雲舎）　『こうさぎと４ほんのマフラー』（わたりむつこ作　出久根育絵　のら書店　2013）　『よーし、よし!』（マクブラットニィ文　アイヴァン・ベイツ絵　光村教育図書　2013）　『ゆきのうえゆきのした』（ケイト・メスナー文　C・サイラス・ニール作　福音館書店　2013）　『ハーキン』（バーニンガムさく　童話館出版）　『わたしたちのてんごくバス』（ボブ・グレアムさく　さ・え・ら書房　2013）　『ジャーニー　女の子とまほうのマーカー』（アーロン・ベッカー作　講談社　2,013）　『ピムとポムしんぶんにのりたい』（バウハウス作　ヴェステンドルフ絵　金の星社　2013）　『ともだちはすんごくすんごくおっきなきょうりゅうくん』（リチャード・バーン作　文化出版局　2013）　『よふかしにんじゃ』（バーバラ・ダ・コスタ文　エド・ヤング絵　光村教育図書　2013）　『月のしずくの子どもたち』（ローラ・クラウス・メルメッド文　ジム・ラマルシェ絵 BL 出版　2013）

読み物

『ハリネズミのプルプル１　森のサクランボつみ大会』（二宮由紀子作　文溪堂）　『モン太くんとミイラくん』（土屋富士夫作絵　徳間書店　2013）　『そんなとき　どうする?』（ジョスリン文　センダック絵　岩波子どもの本　2013）　『１２種類の氷』（E.B.オベット文　マクリントック絵　ほるぷ出版 2013）　『ヘンリーくんと秘密クラブ』（クリアリー作　学研　2013）　『ガフールの勇者たち　７～１０』（キャッスリン・ラスキー著　メディアファクトリー　2010～2013）※request　『RDG レッドデータガール 1～5』（荻原規子作　角川スニーカー文庫）※request　『クレイジー・サマー』（リタ・ウィリアムズ＝ガルシア作　すずき出版　2013）　『さよならを待つふたりのために』（ジョン・グリーン作　岩波書店　2013）※request

💜広瀬恒子さんにいただいた続きです。

絵本：『あんちゃん』（高部晴市作　童心社）　『おめんです』（いしかわこうじ作　偕成社）　『風の又三郎』（宮沢賢治原作　偕成社）　『つばめのハティハティ』（箕輪義隆絵　寒竹孝子　童心社）　『あめふらし　グリム童話』（若松宣子訳　出久根育絵　偕成社）　『ＢＬＵＥＢＩＲＤ　ぼくとことり』（ボブ・スタック作　あすなろ書房）　『うみべのいえの犬ホーマー』（エリス・クーパー作絵　徳間書店）　『チョーシンくんのだいぼうけん』（二見正直作　偕成社）　『江戸の子ども ちょんまげのひみつ』（菊地ひとみ作　偕成社）

ノンフィクション：『ジェット機と空港・管制塔』（モリナガ・ヨウ作　あかね書房）　『tuperatupera のわくわくワークショップ』（tuperatupera 作　チャイルド本社）　『どうなってるの? きしゃとでんしゃのなか』（ボーン文　キング絵　福本友美子訳　童心社ひさかたチャイルド）　『どこにいるかな』（松橋利光作　アリス館）　『きのこ』（埴沙萌作　ポプラ社）

読み物：『魔女がまちにやってきた』（村上勉作　偕成社）　『タイヨオ』（梅田俊作・佳子作絵　ポプラ社）　『パオ～ンおじさんとの夏』（かまだしゅんそう作　新日本出版社）　『ひみつの花便り』（田村理江作　国土社）　『おさきにどうぞ』（森山京作　ささめやゆき絵　文溪堂）　『まほうの地図』『だいすきなわたしになる』（藤沢優月作　金の星社）　『したからよんでもきつねつき』（石井信彦作　偕成社）　『左足のポルカ』（手島織江作　偕成社）　『アサギをよぶ声』（森川成美作　偕成社）以上 2013 刊。　『コリドラス・テイルズ』（斉藤洋作　偕成社）　『ムジナ探偵局＜学校の七不思議＞』（富安陽子作　童心社）以上 2012 刊

詩・ノンフィクション：『いじめのきもち』（村山士郎編　小泉るみ子画　童心社）　『被爆医師のヒロシマ』（肥田舜太郎作　新日本出版社）　『ブータンの学校に美術室をつくる』（榎本智恵子作　WAVE 出版）　『ホッキョクグマが教えてくれたこと』（寺沢孝毅著　あべ弘士絵　ポプラ社）以上 2013 刊

１月に文庫に新しく入った大人の本

読み物

『村上海賊の娘　上・下』(和田竜著　新潮社　2013)『まほろ駅前狂騒曲』(三浦しをん著　文藝春秋 2013) ※request　『書楼弔堂破暁』(京極夏彦著　集英社　2013)　『ペテロの葬列』(宮部みゆき著　集英社　2013)　『ひこばえに咲く』(玉岡かおる著 PHP 研究所　2013)　『赤ヘル１９７５』(重松清著 講談社　2013)　『そして、それから』(村上香住子著　現代思潮新社　2013)　『ハンサラン愛する人びと』(深沢潮著　新潮社　2013)　『皇帝フリードリッヒ二世の生涯　上・下』(塩野七生著　新潮社 2013)

『ピサへの道―七つのゴシック物語』(イサク・ディネセン著　白水社　2013)※request　『11/22 /63　下』(スティーヴン・キング著　文藝春秋　2013)

『千の輝く太陽』(カーレド・ホッセイ二著　早川書房 2008)※request

詩・エッセイほか

『谷間の百合』(細田伝造著　書肆山田　2012)

『私の好きな孤独』(長田弘著　潮出版社　2013) ※request　『白州正子―ひたすら確かなものが見たい』(挟本佳代著　平凡社　2013)　『散歩のあいまにこんなことを考えていた』(松浦久輝著　文藝春秋 2013) ※request　『丁寧に暮らすために』(鈴木京香著　講談社　2013)　『作家の住まい』(コロナブックス編集部編　平凡社　2013)　『花森安治伝』(津野海太郎著　新潮社　2013)　『会えてよかった』(安野光雅著　朝日新聞出版　2013)　『鮨そのほか』(阿川弘之著　新潮社　2013)　『藤沢周平伝』(笹沢信著　白水社　2013)

『生の短さについて　他二篇』(セネカ著　岩波書店 2012)　『忘却のしかた記憶のしかた』(ジョン・W・ダワー著　岩波書店　2013)

『「3 つの体液」を流せば健康になる』(片平悦子著　自由国民社　2013)　『赤ちゃんと絵本であそぼう！』(金澤和子著　一声社)

新書・文庫

『聞く力』(阿川佐和子著　文春新書　2,012)

『邪悪なものの鎮め方』(内田樹著　文春文庫　2014)

『方舟さくら丸』(安部公房著 新潮文庫 13 刷 2013)

『「どこへも行かない」旅』(林望著　光文社文庫)※request　『新釈遠野物語』(井上ひさし著　新潮文庫)

◎寄贈本

以下の本、寄贈いただきました。

SN さんから　午（馬）の年にちなんで

『夕日と拳銃　上・下』(檀一雄著　角川文庫)

『はじめての乗馬』(千葉幹夫監修　高橋書店)　『アラビアン・ホースに乗って』(蓮見明美著　洋泉社)

『美しい馬と生きて』(蓮見明美著　洋泉社)

『アベノミクスで超大国日本が復活する!』(三橋貴明著　徳間書店　2013)　『偽善エネルギー』(武田邦彦著　幻冬舎新書)

O さんから

『ぶらり平蔵　鬼牡丹散る』『ぶらり平蔵　蛍火』『ぶらり平蔵　奪還』『ぶらり平蔵　心機奔る』『ぶらり平蔵　霞ノ太刀』『ぶらり平蔵　上意討ち』(吉岡道夫著 コスミック時代文庫)　『湯島ノ罠　居眠り磐音江戸双紙 44』(佐伯泰英著　双葉文庫)　『うぶすな参り　鎌倉河岸捕り物控 23』(佐伯泰英著　ハルキ文庫)　『二都騒乱　新・古着屋総兵衛７』(佐伯泰英著　新潮文庫)

KN さんから

鏑木蓮著『救命拒否』『屈折光』『東京ダモイ』(講談社文庫)

今期の芥川賞、直木賞が決まりました。

『穴』(小山田浩子著　新潮社)

『恋歌』(朝井まかて著　講談社)

『昭和の犬』(姫野カオルコ著　幻冬舎)

✿ 直木賞受賞作品はすでに文庫にあります。